



おっぱい通信

第11号
2010年6月
大阪南医療センター
母乳育児支援委員会

2010年度、私たちは赤ちゃんにやさしい病院をめざします！！

母乳育児と赤ちゃんのあごの発達

母乳育児で「よく噛める子」に！

赤ちゃんはただ乳首を吸っているだけに思いがちですが、舌とあごを上手に使いながらおっぱいを飲んでいるのです。

一日に何回も授乳することで、赤ちゃんのあごの筋力は鍛えられ、「よく噛める子」になると言われています。



「よく噛める子」は良いことがいっぱい！

* 唾液がたくさん出るようになり、虫歯の予防になる。

(母乳は虫歯の直接の原因にはなりません。

母乳と糖分と歯垢の中のミュータンス菌が組み合わせると、虫歯になります。

口腔内の清浄作用がある唾液がたくさんであれば虫歯の予防になります。)

* 広くて大きい歯茎が作られるので、美しい歯並びになります。



「噛まない」「噛めない」まま育つと…

* 唾液の量が少なくなるので、自浄作用が働きにくくなり、虫歯や歯周病を起こしやすくなり、歯を失ってしまうリスクが高くなります。

* あごの骨の発達が十分でないため、あごが細くなり、歯並びが悪くなる可能性があります。

